

Title	<図書紹介>吉田文庫
Author(s)	日野, 永一
Citation	デザイン理論. 1994, 33, p. 114-114
Version Type	VoR
URL	<a href="https://doi.org/10.18910/53296">https://doi.org/10.18910/53296</a>
rights	
Note	

*Osaka University Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

## 吉田文庫

日野永一／兵庫教育大学

京都大学名誉教授で、京都文化博物館の初代館長であった吉田光邦先生が亡くなられたのは1991年7月。それから3年の歳月を経た。

生前“歩く百科事典”のニックネームを持ち博識を知られた先生であるが、同時にその膨大な蔵書も親しい人達の間では有名な存在であった。古今東西の科学思想・技術・美術・工芸・デザイン・映像等に関する書籍ばかりでなく、文芸や演劇関係の資料・博覧会記録・旅行記・伝記等々、その幅と量とは先生の人間の文化の全容に迫ろうとする姿勢を示すものであった。

急逝後、「しかるべき場所に」というご遺族の意向によって、蔵書の行へを案じる人達が集まった。岡本道雄元京大総長を顧問とし、座長に臼井史朗淡交社副社長、世話役に京大人文研の横山俊夫助教授を選んだ10名ばかりのメンバーが、約4か月にわたり先生の学問と残された蔵書の在り方について様々な論議を行った。

生前吉田邸を訪れた多方面の人々にその蔵書が気軽に利用されていたことから、一部の研究者だけでなく誰でもが利用出来、「人と書物のみのりのある出会い」が出来る文庫であること。また先生の知的好奇心の凝縮であるこれらの書物がばらばらになることは絶対に避けるべきであり、さらに今後も生きた文庫として増殖するものであって欲しい等々の意見が出された。そして蔵書は一括して京都府に寄贈することが決まった。

これらの意図を理解いただいた荒巻知事をはじめ府関係者の努力によって、今年の6月4日、北山の京都府立総合資料館の特別資料

室に吉田文庫が開設された。図書28,270冊、雑誌2,461種4,845冊、パンフレット類317冊、計33,423冊の他に、美術・工芸資料913点、ポスター234点、カレンダー177点、計1,324点を含んだ文庫で、開架の書棚から誰でも直接手に取って見ることができる。貴重な書籍も多数含まれているが、現在でも百種以上の定期刊行物が趣旨を理解した版元から送られ続け、また図書の配列も吉田邸の書庫にあったままの独自の方法で並んでいるといった特色を持っている。勿論パソコンでの検索もできるが、かつて先生がされていたような、人々の要求に応じて必要な図書を紹介する人を、時間をかけて育てたいという希望も持っている。蔵書の内容は、歴史・地理関係が21%、芸術関係20%、社会科学関係14%、文学、工学・技術関係がそれぞれ10%となっている。

上加茂の山々が望める広々とした総合資料館3階の特別資料室には、文庫の開設以来毎日20~30人の人が訪れるという。デザイン・美術・工芸関係の研究にとって、貴重な資料が身近に活用できるようになったことは有り難いことであるが、書棚の間を歩き回り、目についた本をパラパラめくって知的好奇心をかき立てる利用方も、案外吉田先生の遺志に沿うことにもなるのかも知れない。なお、資料館は毎月第2水曜と祝日は閉館。